数量に関する参考質問・回答書

令和８年11月12日

入札参加業者 様

三　次　市 長
（ 財　政　課 ）

案 件 番 号　：案件122
入札案件名　：（三次市立十日市小・中学校改築工事　建築主体工事）

	質 問 事 項	回 答
1	(構造) (P15) 新校舎北棟 土工で根切土仮置き(敷均し)9000m3とありますが、9000m3 の仮置き場があると考えて宜しいでしょうか。	工事範囲外の市有地に仮置き場を確保しています。
2	(P15) 土工数量表の根切土仮置き(運搬距離5.5㎞)敷き均しが、9,000ｍ3 あります。	仮置き土を利用した埋戻しは、北棟5,843㎥、南棟3,157㎥の合計9,000㎥を見込んでおり、仮置き土は全て利用す

	仮置き場から現場までの土砂運搬（運搬距離 5.5 ㎞）が、5,843m3 あります。 9,000-5,843=3,157m3 は、仮置き場に敷き均したままと考えてよろしいでしょうか。場外処分は 10672-9000＝1672m3 と思いますが考え処分場所の指定は無いと考えてよろしいでしょうか。- 又、掘削・土砂運搬（仮置き場既存土）が更に 870m 3 あります。運搬距離 5.5km の同じ仮置き場所に既にある土（普通に掘れる状態で産廃にならない土）を掘削して 870m3 を場外処分するという意味でしょうか。そのように考えると 1672+870＝2542m3 になり発生土処分の数字と合います。	る計画です。 発生土処分先の指定はありません。 仮置き用地に既存の盛土があるため、それを仮置き前に本工事で場外処分する計画です。
3	(P15.P81) 新校舎北棟 発生材処理の 2542m3 の根拠がわかりません。根切り―（埋戻し+盛土）の数量として宜しいでしょうか。	根切り 10,672 ㎥の内、9,000 ㎥は仮置きするため、残る 1,672 ㎥と仮置き用地の既存盛土 870 ㎥を合わせて 2,542 ㎥を処分で見込んでいます。
4	(P83) 新校舎南棟 土工の埋戻し・盛土で A 種と B 種があります。S-01-04 図より、B 種と考えて宜しいでしょうか。	北棟から発生した仮置き土を利用した埋戻し B 種を基本としますが、不足する部分は購入土の A 種としてください。

5	(P83.P141) 新校舎南棟 発生材処理の 6920m3 は根切り数量ですが、埋戻し・盛土が B 種のため、根切り―（埋戻し+盛土）の数量として宜しいでしょうか。	南棟の根切り土 6,920 ㎥は全て処分を見込んでいます。南棟の埋戻しは、仮置き土を使用する 3,157 ㎥を B 種、それで不足する部分を A 種で見込んでいます。
6	(P184) 新校舎北棟 鉄筋 別紙の梁貫通孔補強筋は図面にありませんが、そのまま適用すると考えて宜しいでしょうか。	梁貫通補強は参考数量書のとおり見込んでおり、本工事で適用します。